

## 受賞おめでとうございます

### 下妻中学校の男子生徒2人が善行表彰 道路上の落下物を寄せ、事故を未然に防ぐ

下妻中学校の大島尚樹さん（3年）と塙武士さん（2年）が11月1日、水戸市の県民文化センターで行われた、みんなで教育を考える「いばらき教育の日」推進大会で善行表彰を受けました。

両名は4月9日の午後6時頃、野球部活動終了後に自転車で下校していたところ、道路上に落ちていた大きな木が道を塞いでいるのに気づき、協力しながら急いで道路脇に寄せました。事故になりそうな危ない状況を2人の行動が事故を未然に防ぎ、その行動に感動した近所の方から同校に感謝の連絡がありました。

今回の受賞を素直に「うれしかった」と笑顔の両名。「困っている人には相談のつたり、助けたい」と抱負を語りました。



善行表彰を受けた大島さん(右)と塙さん(左)

### 下妻小学校の学校給食 「文部科学大臣表彰」受賞

下妻小学校の学校給食が11月10日、「平成28年度学校給食文部科学大臣表彰」を受賞しました。同校は自校給食を実施しており、安心・安全な給食の提供を心がけながら、さまざまな場面で食育の機会と捉え、栄養教諭を中心に積極的に推進してきた取り組みが評価されたものです。

文部科学省では、学校給食の普及と充実を図るため、その実施に関し、優秀な成果をあげた学校および共同調理場を「学校給食優良学校等」として表彰しています。今回は学校から小中学校併せて25校、共同調理場2校、個人23人が受賞しました。

秋田市の秋田ビューホテルで行われた第67回全国学校給食研究協議大会内での表彰式に参加した嶋貝雄校長は11月14日、下妻市教育委員会を



横瀬教育長(左)に受賞を報告した嶋貝校長(右)

訪れ横瀬晴夫教育長に受賞を報告し、「これからは衛生的な調理に十分配慮し、安心・安全でおいしい給食の提供に努めます」と謙虚に今後の決意を語りました。

## 歴史・文化

### 土木学会選奨土木遺産に認定 「江連用水旧溝宮裏両樋」

宗任神社(本宗道)の裏手にある「江連用水旧溝宮裏両樋」が10月18日、土木学会選奨土木遺産に認定されました。

「江連用水旧溝宮裏両樋」は栃木県真岡市上江連を水源とし、鬼怒川と小貝川に挟まれた地域のかんがい用として設けられた分水施設で、文政12年(1829)に木造で建設され、明治33年(1900)にレンガ造へと改築されました。東西二つの水門と湾曲する擁壁が一体となっており、上流からの水を等分して下流に流すことができる構造になっています。水門中央部のせき柱は、上流部は船の先端のような水切りの形状で、下流部は階段状になっているのが特徴。建築材として使われたレンガには、明治31年3月に開業した下妻市鯨の國府田煉瓦工場で製造されたことを示す「.:」の刻印を見ることができます。レンガ水門の設計者等は伝えられていませんが、レンガの積み方はイギリス式が採用されています。

昭和50年代に江連用水の流路が変更されたことで使用されなくなり、多数存在したレンガ水門も現存するのはこの水門のみとなっています。歴史的に貴重な施設ということから周囲は公園として整備されています。平成27年3月26日には下妻市初となる国登録有形文化財に登録され、全国に数ある登録文化財の中でも農業施設での登録として珍しいものとなっています。

土木遺産認定プレート▶



レンガ造りの水門「江連用水旧溝宮裏両樋」

## 温かい善意ありがとうございます

### 下妻千代川ライオンズクラブより寄附

11月1日、下妻千代川ライオンズクラブ(山中祐子会長)主催による「第10回チャリティゴルフ大会」が筑波東急ゴルフクラブで開催され、参加者178人から寄せられたチャリティ募金10万円を「青少年育成のため役立ててほしい」と寄附いただきました。



横瀬教育長(右)に寄付金を手渡す山中会長(中)と柴副会長(左)

## 児童虐待防止

### 児童虐待防止を呼び掛け、街頭キャンペーン実施

市では11月の「児童虐待防止推進月間」に合わせ、市内のショッピングセンター3カ所で11月10日、街頭キャンペーンを行いました。

主任児童委員、家庭相談員、市職員などの子育て支援関係者や下妻警察署の警察官が、「児童虐待かと思ったらすぐにお電話をください・児童相談所全国共通3桁ダイヤル189」などと書かれた啓発チラシやグッズを買い物客に配布しながら、児童虐待防止を呼び掛けました。

すべての子どもたちが多くの愛情を受けて、すくすくと育つことが理想ですが、近年では生活環境の変化に伴い、児童虐待の問題が深刻化しています。虐待から子どもたちの命を守るため、一人一人ができることに取り組んでいきましょう。



買い物客にチラシを手渡ししながら児童虐待防止を呼び掛ける主任児童委員

## 幼児教育・子育て支援

### 図書館まつりで 「子どもを伸ばす秘訣」講演会

市立図書館は11月12日、開館15周年記念事業として「子どもを伸ばす秘訣」と題した講演会を同館映像ホールで開催し、子ども連れの母親や教育関係者など80人が参加しました。

講師の筑波大学医学医療系准教授、臨床心理士の水野智美氏は、子どもの行動に大きくくなくすることの大切さや子どもの手本に最もよくないのは親の言いつ、テレビやゲームとの付き合い方などを具体的に例示し、良妻賢母を目指すのではなく、「親が失敗してからどうするか」を見せることで子どもは学んでいくものなどとアドバイスしました。

講演後には個別相談も行われ、子育ての悩みを相談しようとする参加者の列ができていました。

7歳、5歳、1歳の3人を子育て中の母親、安田歩さん(若柳)からは「テレビやゲームは見せては駄目だと思っていたけど、知らない、持っていないという劣等感を子どもが持つということなので、話題になっていることは見せてあげたいと思った」と話が聞けました。



子育てのノウハウを伝える水野准教授

## 移住・定住促進

### 下妻の魅力を伝える バスツアーで移住・定住促進



茨城百景の砂沼を見学したバスツアー参加者(11月6日、砂沼大橋で)

人口減少社会に突入した現在、人口減少に歯止めをかけようとする移住・定住に向けた施策に取り組む下妻市は11月5日(土)・6日(日)の両日、砂沼サンビーチをメイン会場に行われた茨城の食の祭典「茨城を食べよう収穫祭」と同日開催で、「下妻市に住もう!移住・定住バスツアー!」を開催しました。

同バスツアーは、首都圏に住み、下妻市をはじめ地方への移住・定住を検討する人を対象に募集したところ総勢38人が参加。市職員がガイド役となり、市内の主要な公共施設をはじめ、買い物などの商業施設、教育や医療機関、公園など、幅広く下妻市の魅力をPRしました。

参加者からは「元気があって住み良さそう」「将来性を感じます」「緑豊かで生活に必要な物は揃うロケーションに魅力を感じた」など移住・定住に向けて好意的な意見が多数聞けました。

有料広告欄